



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)



茅ヶ崎の秋の实い

1・深まる！市民と農業者の交流

① 海辺の朝市



色とりどりの新鮮野菜

毎週土曜日の8時から9時まで、茅ヶ崎公園野球場東側駐車場付近で朝市が行われています。市内の農家16軒が野菜や花卉の直売を行っています。



② 家庭菜園

市が地権者から土地を借り受け15m²または30m²の区画を希望する市民に貸し出す制度です。香川、高田、松が丘など市内13ヶ所、全718区画あります。3年毎に更新を行い、希望者多数のため例年抽選を行っています。平成24年度利用者を募集する菜園は7ヶ所あり、募集の詳細は平成24年1月頃の広報紙やホームページにて発表されます。



③ 市民農園



農家自らが運営しているものを「市民農園」と呼んでいます。区画の広さ、利用料金、また水場や栽培指導の有無など、農園それぞれに特徴があります。利用者の募集は新規開設や空きが出た際に随時行われます。募集中の農園情報は市のホームページや農業水産課窓口で確認することもできます。

本紙4ページで取り上げている富士見ファーム赤羽根市民農園がこの代表例です。

← 左の写真は秋野菜の種まき準備で汗を流している利用者

④ 果樹持寄り品評会

生産者が自慢のぶどう・梨・柿を市役所に持ち寄り品評会を行っています。ぶどう・梨の部が今年8月26日に行われました。人気のぶどう藤稔が注目のまどでした。

ぶどうの部で優等賞を獲得されたのは小西農園（西久保800）でした。

柿は11月の予定です。



⑤ 買物ツアー



畑で農家から説明を受ける



直売所で買物中

地元でとれたおいしい農水産物を市民に楽しく味わっていただくイベントとして、平成13年から夏と秋に開催しています。昨年度から、親子向けツアーを夏休みと春休みに開催しています。農家をマイクロバスで巡回し、お話を聞きながら、畑見学、ときには収穫、そして買物と茅ヶ崎産の農水畜産物をより身近に感じることができます。

また、生産者だから知っている旬の野菜の情報やおいしい食べ方などを聞くことができます。

⑥ 援農ボランティア制度



援農ボランティア育成のための農業研修講座 - 2コマ

援農ボランティア受け入れを希望する農家と農作業の手伝いを希望する市民がそれぞれ農業水産課に登録し、市がボランティア派遣の斡旋を行うものです。

ボランティアなので賃金は発生しませんが収穫物を受け取ったり、農業技術の習得や健康増進など、余暇の充実を図っていただくことができます。

食の安全に対する意識の高まりの中、地域で生産された農産物を地域で消費する「地産地消」が注目されています。生産者と消費者の距離を縮め、お互いに理解を深める取り組みのいくつかをあげてみました。さらに情報を得たい方は茅ヶ崎市役所農業水産課を訪ねてください。

(取材協力 茅ヶ崎市役所農業水産課)

2. 農と歴史の里 西久保を訪ねて

農で繋がる民話と歴史の里は今収穫期を迎えている



農と歴史の里 西久保

市内中西部に位置する歴史と民話と農が地域の暮らしに溶け込んでいる西久保地区を紹介します。

この一帯は古くは相模川によって運ばれた土砂によって形作られた沖積低地で、標高は高く6m程度の平地です。新湘南バイパス道で分断される南東側(写真左下)は自然堤防で形造られ、古くからの集落跡が発見されています。西久保の大屋敷と呼ばれる場所から最近の発掘で古墳時代頃の管玉(くだだま)の工房跡が発見されています。

「にしくぼ」は西の窪地が語源ともいわれています。小出川は元は蛇行していましたが、大正13年の河川改修で直線化されました。また、ここは民話「河童徳利」伝説発祥の地でもあります。

タゲリ米をはじめ、新鮮な野菜や、梨、ブドウ、柿等が出廻る軒先直売所を見つけよう！



小学5年生の鎌での稲刈り

相模縦貫道や藤沢大磯線などの公共開発や住宅の進出で農地も減少を続けています。その中であって施設園芸や果樹栽培で工夫し付加価値をあげ市内でも優れた野菜、果樹、花卉を栽培する農業後継者が育っています。

県の絶滅危惧種になった冬の渡り鳥タゲリが飛来する貴重な水田を守りたいと願う自然保護グループの人たちが立ち上げた生きものブランド米(注)「湘南タゲリ米」が生産されています。この生産農家は稲作学習を取り入れる小学校や自然保護団体の体験米作り指導にも協力しています。

(注) コウノトリなど地域のシンボリックな生きもの名前を付けた米。

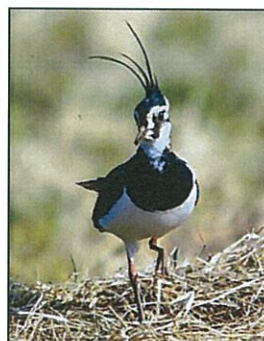
タゲリの里は自然のパワースポット！ 丸ごと発見しませんか？

水田、水路、小出川の水系の中で、冬の渡り鳥「タゲリ」をシンボルとした多くの生き物たちが育まれています。耕作する人達と野鳥、昆虫、小魚、野草などの貴重な生きものたちの共生する空間＝食物連鎖がここにはまだ豊かに残っているのです。

農家やその自然環境を守るため活動する人達は、一般市民や子供たちにも、水田の持つ多面的な機能を知ってもらおうと様々な起案をしたりイベントに参加しています。水田は重要な都市資源であり、そこに棲む生きものも、そこで暮らす人たちの生活や季節感ある伝統行事などが地域のお宝なのだと思います。



稲の実りの合図の様に咲く彼岸花



刈入れ後の冬の田んぼに降りたタゲリ



夏休みの生きもの採集

(文章・写真 鈴木國臣)

3. 富士見ファーム赤羽根市民農園

赤羽根地区にある市民農園 富士見ファーム赤羽根に、組合長の大山末義氏を訪ね、インタビューをしました。ここは、農地を貸与している13名で構成する組合が運営しています。



農園利用者が大山氏(右)に技術相談



農業ふれあい館

農業ふれあい館、駐車場、池があります。区画は30平米と50平米があり、それぞれ73区画、94区画で現在利用率100%、待機中の方が20名と大変な人気です。年間利用料金はそれぞれ21,000円、35,000円と手ごろです。

この市民農園の魅力はいっぱいです。農業ふれあい館にはだれもが出入りでき、農園利用者は備え付けの農機具を無料で借りることができます。4名の指導員が親身になって相談にのってくれます。また、井戸(手押しポンプ)が5ヵ所あり、藤棚とベンチもあります。

春と秋2回の講習会で季節に適した作物などノウハウを提供したり、7月には各区画の生育状況などを評価する品評会で優秀者を表彰しています。今年も11月19日(土)には楽しみ満載の収穫祭が予定されています。

インタビューは平日でしたが、秋野菜の植え付け準備で多くの農園利用者が汗を流していました。自然農法?で雑草が生えている畑や、いろいろな野菜が大きく育ったよく手入れされている畑があったりで、一目見れば利用者の技量や性格がうかがわれます。井戸にあるベンチでは気心が知れた者同士が手を休めて、これから何を植えようとか、今年は天候不順で収穫が少なかったとか、文字通り井戸端会議をやっているところが農園ライフを心から楽しんでいるといった印象を受けました。

(9月6日 取材 川合重貞)

富士見ファーム赤羽根 収穫祭

日時: 11月19日(土)

午前10時~午後1時30分

出し物: 吹奏楽演奏・お囃子、トン汁

・焼きそばなど出店、農産物直売、米すくいなど

お詫びと訂正

本紙第8号(川上貞奴、音二郎特集)の8ページで紹介しました「発掘された日本列島2011に出展!」の日程・会場 ⑤ 平成24年1月2日(月)~2月14日(火)の会場については、東京都江戸東京博物館としていましたが、正しくは 高知県立歴史民俗資料館 でした。心よりお詫びして訂正させていただきます。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何?

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、このまちらしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれが持っている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、本市を改めて知り、本市を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

編集
後記

今回は秋にちなみ、秋の実りをテーマにして市民と生産者のつながりに焦点を絞りました。市民のみなさんには余暇活用として農業・農作業へのより深く関心をもってもらい、生産者の日頃の苦勞と工夫もこの小誌によって発見していただければ幸いです。(ちがさき丸ごと博物館の会 川合)

発行・編集 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館 季刊誌編集委員会 (印刷協力 湘南ちがさき屋)

〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-1-1 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部 社会教育課文化財保護担当

Tel 0467-82-1111 内線 3342 E-mail: shakaikyoku@city.chigasaki.kanagawa.jp